

創立60周年記念式典報告

令和元年11月7日（木）15：00～19：30に下記の通り、“（一社）東北地質調査業協会”創立60周年記念式典を実施いたしました。これまで協会を支え、導いていただきました各位、各会社様に御礼いたしますとともに、今後とも当協会のますますの発展に御指導・御助力頂けますようよろしくお願い致します。

以下に簡単ではございますが、先の式典の進行・次第等につきまして御紹介させていただきます。当日、災害対応等で御都合がつかなかった会員各社の方々に雰囲気なりお届けできれば幸いです。

○記念式典次第（15：00～15：50）開会（15：00）

（会場：ホテルメトロポリタン仙台 4F 千代の間）

主催者代表挨拶（15：00）

一般社団法人東北地質調査業協会理事長 奥山 清春

来賓祝辞（15：05）

国土交通省東北地方整備局局长 佐藤 克英様

宮城県知事 村井 嘉浩様

（代参：土木部理事 笹出 陽康様）

一般社団法人全国地質調査業協会連合会会長 成田 賢様



挨拶に立つ奥山理事長



東北地方整備局局长



宮城県土木部理事

祝電披露（15：20）

表彰（15：25）

一般社団法人全国地質調査業協会連合会
会長表彰（3名）



受賞者謝辞
旭ボーリング（株）
代表取締役社長 高橋様
（理事長職本当にお疲れ様でした
スタッフ一同）



全地連成田会長と会長表彰受賞者
（左から高橋様、成田会長、（株）サトー技建 菅井様
中央開発（株）東北支店 鈴木様）

一般社団法人東北地質調査業協会理事長表彰（18名）：

各社勤続35年の方々（おめでとうございます）。



受賞者記念写真撮影

及川 一志	旭ボーリング株式会社	青木 淳一	株式会社新東京ジオ・システム
佐藤 一也	旭ボーリング株式会社	植松 禎祐	株式会社高田地研
對馬 博	応用地質株式会社東北事務所	高橋 一雄	株式会社テクノ長谷
佐藤 和恵	奥山ボーリング株式会社	川嶋 修	株式会社テクノ長谷
柿崎美喜夫	奥山ボーリング株式会社	本田 仁宏	株式会社テクノ長谷
近江 久	奥山ボーリング株式会社	高橋みゆき	株式会社テクノ長谷
藤井 登	奥山ボーリング株式会社	佐藤 欣一	土地地質株式会社
遠藤 吉之	株式会社自然科学調査事務所	富田 宏	日本地下水開発株式会社
西坂 元男	新協地水株式会社	小笠原信吉	明治コンサルタント株式会社

（敬称略）



受賞者謝辞：奥山ボーリング（株）
営業本部長 柿崎様

閉会の挨拶（15：45）



一般社団法人東北地質調査業協会
副理事長 橋本 岳社

○記念講演：＝だれ一人取り残されないために＝僕の国キリバスからのメッセージ＝
ケンタロ・オノ（一社）日本キリバス協会代表理事



演者プロフィール：

日本に生まれ、日本人として史上初めてキリバスに留学し帰化した日系一世。日本唯一のキリバス共和国の専門団体として立ち上げた、(一社) 日本キリバス協会の代表理事。

演者より：キリバスにおける地球温暖化が引き起こす影響の講演・環境講座、各種情報提供、交流事業、調査事業、コンサルタント業務、メディアコーディネーション、翻訳・通訳業務など、仙台を拠点に誰にも負けないキリバスの知識と経験で活動しております。もはや国としての形、国民としてのアイデンティティの存亡に関わる問題となった気候変動・地球温暖化。太平洋に浮かぶ美しい島国で、世界でもまだあまり知られていないキリバスの文化やそこに暮らす入々の視点から、日本にも迫りつつある気候危機について一緒に考え、一人一人の行動につなげる火付け役として、国内外で講演を行っています。

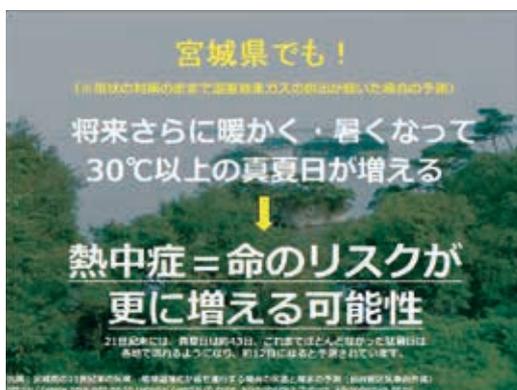
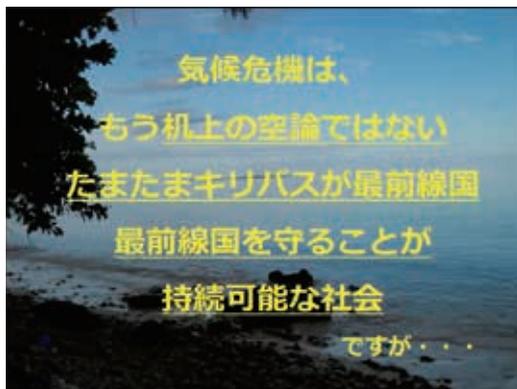
東北地質調査業協会が出来て60年、北海道とも陸（新幹線）でつながり、北日本大震災の影響ではありますが、東北にも全県に渡って高速道路と新幹線が張り巡らされました。陸の奥と言われた東北が今や仙台－東京で1時間半、青森－東京でも3時間半で到着します。上野駅（あの頃はホームに座り込んでカップ酒を呑むおやじさんが妙に似合っていましたっけ）から津軽に乗って一晩かけて青森に行っていたのはほんの30年程前なのに。今では打合せでは日帰り圏内と迄言われます。行政やJR、JH様等関係各位の不断の努力には頭が下がります。

一方で21世紀を迎え、世界中で開発によって自然環境がダメージを受けているのもまた事実で、近い将来（私が生きている程度の）色々な問題が具現化するのもたぶん事実です。その足音は例えば南洋の小さな島から、今まさに襲い掛かってきているのです。他人事と思わず、キリバスの思いを聞いて下さい（申し訳ございません協会での講演は既に終わってしまいましたが、日本人たちが地球環境の事を益々気にする様になればいつか聞く機会はあると思います）。

東北でもこれからは維持と環境の共存に目を向けていかなければならないときですから、ケンタロさんの話は 開発者として或いは生活者として 発注者を含め多くの人に い つも心に留め置いて、考えて貰いたい話題だと思いました。

これからの東北の地質調査業界の進む方向性を考えるうえで、開発と地球環境は切っ ても切れない話ですし、本演題はとてもタイムリーな話題で、よくぞこの60周年の転機 にこの講演を選んでいると思っています。この講演で思いを新たにされた会員諸氏も多く いるのではないのでしょうか。

「大地」は東北の開発を担う行政担当者と開発をサポートする地質調査・コンサル業者 を対象とする誌面です。今後の地球環境と東北の発展を担う人たちへ一石を投じ参考に していただければ幸いです。



記念講演「『だれ一人取り残されないために』僕の国キリバスからのメッセージ」より引用

○記念祝賀会次第（17：30～19：30）
開会（17：30）

開宴のことば（17：30）
一般社団法人 東北地質調査業協会
理事長 奥山 清春



開会の言葉（奥山理事長）

来賓祝辞（17：35）
公益社団法人 日本地すべり学会東北支部
支部長 大河原正文 様

一般社団法人 応用地質学会東北支部
副支部長 新田雅樹 様



左：大河原様



右：新田様

乾杯（17：50）



公益社団法人 地盤工学会東北支部
京谷孝史 支部長様



御来賓の各学会の皆様とケンタロ・オノ様

宴（17：55）



全地連表彰者と各団体御来賓の方々の御席



ケオルマカニカウヒヴァイオカアイナ（フラダンス）



東北地質調査業協会理事長賞表彰者の方々の御席



各地方からお越し頂きました協会の方々の御席



会員各社様より寄せられた銘酒の数々



各協会等御来賓の方々と協会賞受賞者の御席



各地方からお越し頂きました協会の方々の御席



賛助頂いた会社様と会員企業の御席

閉会のことば (19:20)

一般社団法人 東北地質調査業協会

副理事長 太田史朗

